

ビューチフルドリーマーカップ

OP牝・ダート2000m M1

9月7日(日) 盛岡競馬場

昨年の優勝馬・ミミアチュール



GDJ2025／(株)優駿協賛／スポーツニッポン杯

第51回 ビューチフルドリーマーカップ (M1) (ベストウォーリア賞)

盛岡競馬場／3歳以上OP牝・地方競馬全国交流・ダート2000m

9月7日(日) 第11競走 18:05発走

ビューチフルドリーマーは明治40年に小岩井農場が輸入した牝馬で、日本の競馬における「キング・オブ・マザー」と呼ぶにふさわしい繁殖牝馬でした。

本競走はその偉大な母の名をいただいて1975年に創設。当初は特別競走として、2000年からは重賞競走に格上げされつつ岩手の古馬・牝馬の頂点となる戦いとして根付いてきました。第32回・33回を連覇したサイレントエクセルはのちに岩手ダービー馬チャイヤプーンを送り出すなど、このレースの勝ち馬もまた未来へと血筋を繋いでいます。

■ツルマルベル(牝5 水沢・小林義明厩舎)



重賞には初の挑戦。それ以上にマイル以上の経験が無く2000mも初めてという点が課題になるだろう…というのは正直な印象。一方で本馬の末脚、混戦でこそ生きてくる決め手は魅力だとも感じる。その持ち味をどこで繰り出して、どこまで活かせるか？だ。ただ、今季は盛岡・水沢とも差し馬向きの、つまりこの馬向きの傾向になったことはほとんど無かったという点は付け加えておきたい。先行激化で差し馬が台頭する展開にでもなればこの馬にも出番が…は想像しておきたいところだ。

「2000mではじっくり構えてどこまで最後の脚が使えるか？自分の競馬に徹する形でしょう。馬場が湿ってくればありがたいね。(小林義明調教師)」

■マルーントリック(牝4 水沢・佐藤祐司厩舎)



半兄エンパイアペガサス、半姉にはファイントリック。堅実さと意外性が同居したような本馬の戦績はやはりその血筋だと感じるものがあるが、陣営はまだこの馬を掴みきれないと言う。「本当はもっと長い距離が良いのかもしれないのですが1400mで強い競馬をしたりして定まらない。はまなす賞のような走りができるなら…と思うのですが（佐藤祐司師）」。しかしきょうだいたちも“この条件でこんなに強いのか！”と唸らせる走りを見せていた。本馬にとってそれがここであっても…。

「ハマった時は本当に強い走りをしてくれる馬。ただそれがこの距離なのかもっと短い距離なのか？ですね。血統的には秘めたものはあると思っています。（佐藤祐司調教師）」

■クイーンカード(牝4 盛岡・櫻田浩樹厩舎)



直近の5戦では2勝2着3回のパーフェクト。昨年もそうだったように好調時にはまとめて好走するタイプのように、その見方からしても今が好調期なのは間違いない。課題はやはり距離であり初めての重賞挑戦、ここでどう戦うか？にかかってくるのだろう。ポジティブなことを挙げるなら好調サイクルの時にはマイルでも強豪と差のない戦いをしている点か。どこまで食い下がるか本馬の底力に期待してみよう。

「以前から長い距離で走らせてみたいと思っていた馬。調教で感じさせるスタミナはかなりのものがありそうです。それを発揮してくれたら。（櫻田浩樹調教師）」

■ケープライト(牝5 水沢・佐藤浩一厩舎)



前走のフェアリーCは2着。勝ったミニアチュールから大差ではあったものの1800mでの結果はここに向けて心強い。最近は短距離での出走が多かった本馬だが、3歳時はひまわり賞ややまびこ賞、1800mの重賞で2着を確保していたのだから距離に対応した前走の走りにフロック感はない。むしろ現時点の好調さをしっかり発揮したと評価して良いものだ。今季末勝利だが着順以上に調子を上げてきてもあり、展開ひとつで上位突入もあっていいだろう。

「春先に無理をしなかった分、ここに来て良い状態をキープできています。無理に先行する馬でもないですし、ひとつでも上の着順を期待しています。（佐藤浩一調教師）」

■ミナトミナイト(牝3 水沢・伊藤和忍厩舎)



6年ぶりの3歳馬の挑戦だ。ひまわり賞は自身初の1800m、重賞は二度目の挑戦。それでいて鞍上の高橋悠里騎手が「完勝だった」と振り返る強い走りを見せつけた。一進一退しつつ力を付けてきた現時点の成果が重賞初制覇に繋がったと見ていい。このレースへの3歳馬の挑戦は決して少なくはなく6年前のグレースレジーナは4着、10年前にはジュエルクイーンが2着に入っているが勝利となると19年前のサイレントエクセルまで遡る。10年ぶりの連対かあるいは19年ぶりの勝利か。本馬の挑戦に注目しよう。

「前走後も順調。距離はこなしてくれると思いますし、強い相手と戦うことでオータムティアラに向けての良い経験にもなると考えてのチャレンジです。（伊藤和忍調教師）」

■ミニアチュール(牝5 水沢・佐藤祐司厩舎)



昨年の覇者が連覇に挑む。昨年はこのレースまでに3勝、今年は前走のみの1勝という数字だけを比較すれば一見“昨年ほどの勢いはないのか？”と感じるかもしれないが、ヒロシクンやフジュージーン、ヘリオスやリケアカプチーノといった牡馬最上位レベルを相手に2着・3着に食い下がってきた内容はこの馬の評価を上げこそすれ下げるものではないのは明白だ。今年の大目標は桐花賞制覇にあるがその前に船橋JBCも視野に入れてのここまでのローテーション。その目標をクリアするためにもここは好結果を手にした一戦だ。

「調子面は何も問題無いですし去年からひとつ年を取ったけど変わりはない。あとは相手関係だけ。去年と同じ形ではないにせよ良い競馬はできると思います。（佐藤祐司調教師）」

■ザオ(牝4 船橋・米谷康秀厩舎)



提供:千葉県競馬組合

前々走を快勝、牡馬重賞戦線に挑むために参戦した前走は、しかし僅差ながら4着に敗れた。そこで牝馬重賞に路線変更となったが“重賞を勝てる器の馬”という師の評価に変わりはない。今回の課題は前日輸送にあるようだ。「南関内での当日輸送がどうも合わなくて船橋以外では力を出せない。前日輸送なら良いのか？を探る意味もあります（米谷師）」。この路線を進むなら遠征対応は必須。ここで力を出せるなら今後の選択肢も大きく広がる事になる。彼女の底力に期待と注目の一戦。

「デビュー前から大きな所を狙える馬だという手応えがありました。前日輸送をこなしてくれればグラウンドを狙いにも行けますし、今後に繋がる競馬をしてほしいですね。（米谷康秀調教師）」

■ラブラブパイロ(牝6 大井・荒井朋弘厩舎)



前走ノースクイーンCは結果としては4馬身差の2着だったが、直線半ばまで勝ち馬と競り合い続けて崩れなかった走りには「ラブラブパイロはやっぱりしぶとい」という声がレース後の他馬の関係者から聞こえてきた。そんな前走や前々走は逃げる形になったが昨年のノースクイーンCやこのレースでは中団からマクする形で勝ち負けを演じており、それが本来のこの馬の戦法でもある。前に行きたい馬が周りに揃ったのは、むしろこの馬におあつらえ向きの展開をもたらすかもしれない。

「今回は1ヶ月ほど開いている分、前走時より調整は楽でした。左回りがというより川崎との相性が今ひとつな結果。広い盛岡なら特に不安はありません。（荒井朋弘調教師）」

■マテリアルガール(牝5 浦和・小久保智厩舎)



昨年は3着でも地力の高さを十分に感じる走りだったが、その結果は必ずしも本馬の本当の力ではなかったと小久保師は振り返る。「輸送とか初コースとか相手とか、そういうものが割引だったのではなく、もっと上手い仕上げ方があったのだろうと思う（小久保師）」。3歳時から強い戦いを見せてきた本馬だが実は重賞未勝利。「とうに重賞の一つくらい勝ってなければいけない馬。いつか復活させないと」とも。前走で久々の3着確保。これが復活ののろしならここで怖い存在になるはずだ。

「夏負けもせず元気いっぱい。状態は悪くないものの結果が出なかったが、スランプみたいなのは脱したかな。上手く調整できていれば良い結果に繋がると思う。（小久保智調教師）」

■ローリエフレイバー(牝4 大井・月岡健二厩舎)



前走・前々走は勝ち馬から大きく離される形の敗戦。ただ前々走は牝馬のグレードレース、前走もオープン特別とはいいいながらグレード入着級の牡馬がひしめいていた一戦。そこで真っ向先行勝負をした結果だと思えばむしろ“そんな相手にでもあそこまで前に行ける”という評価をしたいもの。「この馬の母も私の厩舎にいたのですが、お母さんも気が向かないと大敗したりする馬でした。この馬にもそういう所はあるのじゃないかと月岡師。その気になればあっさり勝ち切っておかしくないということ。まだまだ侮れない。

「前走後は北海道でリフレッシュして8月頭に帰厩。その後の調教は順調です。初めての盛岡はやってみなければ…ですが、馬自身は対応してくれると思っています（月岡健二調教師）」